

様式第2号（第9条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	令和8年度第2回介護保険等運営審議会			
開 催 日 時	令和8年6月26日(金) 開会時刻 午後1時15分 閉会時刻 午後2時40分			
開 催 場 所	ふじみ野市役所 本庁舎 A大会議室			
出席した者の氏名	役職名	氏 名	役職名	氏 名
	会 長	石川 亮	事務局	船津福祉部長
	副会長	市來 久美子	事務局	川島高齢福祉課長
	委 員	松本 三香子	事務局	藤茂登高齢福祉課主幹
	委 員	内藤 浩由	事務局	古川高齢福祉課副課長
	委 員	速水 秀樹	事務局	中村地域支援係長
	委 員	西村 正博	事務局	大野主任
	委 員	中村 友紀	コンサルタント	(株)アールピーアイ栃木 室井
	委 員	日暮 雅之	コンサルタント	(株)アールピーアイ栃木 飯野
	委 員	野溝 守		
	委 員	佐藤 茂		
	委 員	坂 義信		
会議の議題	(1) 諮問について 第10期ふじみ野市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画の概要について (2) 第10期ふじみ野市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定に係るアンケート調査結果について (3) その他			
会議の公開又は非公開の別	公開			
会議の非公開の理由				
傍聴人の数	1人			
発言の内容	別紙「発言の要旨」のとおり			
会議資料	別添のとおり			
事務局	福祉部高齢福祉課			

議 事 の 確 定	確 定 年 月 日	令和8年7月13日
	記 名 押 印	役職名 会長 石 川 亮 印

別紙

発言者	発言の要旨
事務局	第2回介護保険等運営審議会 開会のあいさつ 「ふじみ野市介護保険条例施行規則」第30条第2項の規定により、委員の出席が過半数に達しているため、会議の成立を認める。
(議題1)	諮問について 第10期ふじみ野市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画の概要について
コンサル	資料に沿って説明 【質疑等】 なし
(議題2)	第10期ふじみ野市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定に係るアンケート調査結果について
コンサル	資料に沿って説明 【質疑等】
委員	質問・意見1 WEB回答を導入したこともあり、前回の調査より回収率が上がって良かったと思う。 アンケート結果には、移動手段や地域活動への関わり方など、他部署に関係するものもあると思うが、市役所内で情報共有はされるのか。
事務局	回答1 本計画における庁内検討委員会が設置されており、関係課が出席している。移動手段等、必要なことについては、他部署と連携して検討を進めている。
委員	質問・意見2 ニーズ調査については、回収率が76.7%と高い割合となっているが、すべてのニーズに応えることは難しいと思うので、重点を絞って計画を策定してほしい。 質問・意見3

事務局	認知症ヒアリング調査について、認知症の症状や進行の程度は個人差が大きく、本人調査のアンケート結果のみでは概要を把握することが難しいと考えられる。そのため、比較的共通した視点から状況を捉えやすい家族調査の結果に重点を置き、分析を進めてはどうかと思う。 回答 2 予算や人員の都合によりすべてのニーズに応えることは難しいため、介護予防、移動支援、認知症施策推進計画に重点を置き、計画策定を進めたいと考えている。 回答 3 認知症ヒアリング調査については、配付件数を増やしたいところではあるが、郵送による配付・回収が難しく、市職員及び地域包括支援センター職員が直接訪問して調査を実施していることから、現在の件数となっている。本人調査については、調査内容を理解し、自分の意見を述べるができる方を対象にしているため、一定の偏りが生じている可能性はある。一方、家族調査については、症状の軽重を問わず調査を実施していることから、家族からの意見は貴重なものと考えており、今後の分析や施策検討の参考にしたいと考えている。また、地域包括支援センターやオレンジカフェ等を通じて、日常的に意見を吸い上げているため、それらの意見についても併せて参考にしたいと思う。
委員	質問・意見 4 アンケート結果は、第 10 期計画の土台となる重要なものであり、地域で生活する中で、実際に感じている課題や気づきがアンケート結果に反映されていると感じた。オレンジカフェなどは、地域の方がほっとできる居場所として活用されているという声があり、参加者だけでなく、ボランティアの生きがいや活力にもなっている。 高齢化が進む中、移動手段の確保などの課題についてもアンケート結果を参考にして検討を進める必要があり、より良い計画にしていきたいと思った。
委員	質問・意見 5 健康的で自立した生活を維持していくためには、40代・50代といった比較的若い世代から運動習慣や適切な食生活の定着をすると良いといった説明があったが、その年代は、市外で就労している方も多く、地域外にコミュニティを持つ傾向があるため、

事務局	地域活動への参加経験が少ない方も多いと思う。そのため、早い段階から地域とのつながりが持てるような取組や仕掛けについて、どのようなアイデアがあるのか教えてほしい。 質問・意見 6 介護者について、市外で就労している方がどの程度アンケートの回答者に含まれているのかが気になるが、そのような方に対する、ケアマネジャー等との連携、情報提供について、具体的な取組があれば教えてほしい。 回答 4 質問・意見 5 について、40代・50代などの比較的若い世代には、生活習慣病予防の観点から、保健センターにおいて健康増進や生活習慣病予防事業を実施している。担当部署は異なるものの、保健センターとは連携しており、保健事業と介護予防の一体的な推進を図っている。健康増進・生活習慣病予防と介護予防は一直線となり、目的は同じである一方、「介護予防」という言葉は若い世代には自分事として捉えられにくい面があることから、今後は周知方法や情報発信の工夫を行っていきたい。
事務局	回答 5 質問・意見 6 について、アンケート調査は、本市在住者を対象としているため、市外在住者への調査は実施していない。ただ、回答者の中には過去に他自治体に居住していた方もいることから、自治体間の取組の違いを感じ、アンケートに回答している方はいる。地域ごとの特性や差異があることから、認知症に関する普及啓発を幅広く進めることが重要である。認知症サポーター養成講座について、自治体によっては受講者を市内在住者に限定している場合があるが、本市では居住地を問わず受講可能であり、依頼があれば市外での開催にも対応している。商業施設を対象とした講座も実施しており、市外在住で本市に勤務している方にも認知症への理解を広げられるよう取り組んでいる。 ケアマネジャーや介護事業所は市外在住の介護者家族と関わる機会も多いことから、支援者間で市の施策や支援制度に関する情報共有を図りながら、必要な情報が対象者や家族へ届くよう取り組んでいきたい。
委員	質問・意見 7 現在、自治会への加入率は約3割となっているが、自治組織が最も身近な地域コミュニティだと思う。地域とのつながりが希薄

	化する中で、若い世代をいかにして取り込み、参加を促していくかが課題となっている。
委員	質問・意見 8 子どもが小さい時は P T A など地域とのつながりができるが、子どもが大きくなると、そのようなつながりも途切れてしまう現状がある。
委員	質問・意見 9 ケアマネジャーや高齢者あんしん相談センターは、土日が休業の場合も多いが、介護者の中には、就労している方も多く、相談できる時間帯が土日や祝日に限られる場合があることから、相談窓口の在り方について幅広く検討していく必要がある。オレンジカフェ等のイベントについては、土日や祝日に開催するよう工夫しているが、こうした取組の周知が十分ではない。SNS 等を活用した情報発信を進めるとともに、SNS を運用していること自体の周知も必要である。さらに、高齢者あんしん相談センターの役割や機能について十分に知られていない現状があることから、様々な機会を捉えて周知啓発を行い、必要な方に情報が届くよう工夫が必要である。
事務局	回答 6 質問・意見 9 について、地域包括支援センターは土曜日にも相談対応を行っている。家族介護支援教室については、市内の介護事業所の協力を得て祝日に開催するなど、参加しやすい環境づくりに努めている。今後も介護者や家族のニーズを踏まえながら、利用しやすい相談支援体制の充実に取り組んでいきたい。
(議題 3)	その他
事務局	次回運営審議会の日程について オレンジガーデニングプロジェクトについて
委員	【質疑等】 質問・意見 1 0 オレンジカフェでも依頼すればオレンジガーデニングプロジェクトの看板はもらえるのか。
事務局	回答 7

	はい。
--	------------

	閉会
--	-----------